

岡山SRH研究会

会報誌～第3号～

平成18年6月3日(土)
岡山SRH研究会運営委員会

吹く風も夏めいてまいりました。いかがお過ごしでしょうか。6月に入り、梅雨を迎えようとしています。
6月は、若者たちの心や行動が、乱れたり不安定になったりしやすい時期でもあるそうです。
同時に、私たちが様々な問題と向き合い、深く考えるという機会も増えるのかもしれません。
そんなときの経験や悩み、課題などを、仲間同士で分かち合い、ともに考える場としても、
岡山SRH研究会を皆で活用し、盛り上げていけたら、とても頼もしいことだと思います。
会報誌も、そのお役に立てるこをを目指しながら、定期的に発行していきます。
これからも、みなさんの、ご意見・ご感想をお待ちしております。

梅雨冷えの肌寒い日もあるかと思います。みなさま体調をくずされませんよう、ご自愛くださいませ。

(運営委員会 会報誌編集係)



第10回研修会報告

平成18年5月14日(日)、岡山県ボランティア・NPO活動支援センター(ゆうあいセンター)にて、「岡山 SRH 研究会 第10回研修会」が開かれました。今回は、性教育者として全国で様々な普及活動をされている、岩室紳也先生を講師としてお招きし、「男性の性について」という演題で素晴らしいご講演を頂きました。講演後は、会場からの質問にもお答えいただき、学び得ることの多い大変充実した研修会となりました。

岩室先生が講演のなかでお話しあった内容の一部を以下にまとめさせていただきます。

「男性の性について」

地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長

岩室紳也先生

- ・ 現代社会において、ゲイは50人に一人の割合と言われている。中学高校に行って性教育を行う場合、クラスに1~2人はゲイの生徒が居ると思ってよい。その割合で、果たしてマイノリティ(少数派)と言ってよいのだろうか。
- ・ なぜゲイにHIV感染者・エイズ患者が多いのか？その理由の一つに、肛門性交の際、直腸に入った精子が体外に排出されないため、体内で吸収され感染に至る可能性が高いと言われている。
- ・ クラミジア感染の場合は、女性の方が感染しやすい。若い男性は検査を受けない事が多い。また男性は2割くらいしか症状が出ない。産婦人科の医師は女性患者が来院したときには、パートナーにも検査・治療を受けるように勧めて欲しい。
- ・ 岡山は、人工妊娠中絶が全国で7位である。
- ・ 中学高校に性教育に行き、妊娠すると最初に現れる変化を聞くと、「お腹が大きくなる」「気分が悪くなる」などと答える者が多く、まず、「月経が止まる」ということを教えて欲しい。
- ・ 現代社会の課題に、セックス出来ない、マスターべーションの仕方も分からぬという男性も増えていることが挙げられる。
- ・ 関係性に問題を抱えた男性には、具体的に伝えていかなくては分からないことがある。大切なのは、色々な人との繋がりであり、色んな人に支えられているということを教えていくことだと思う。
- ・ 子供たちのコミュニケーションはチャット、メールなど相手を意識しないで出来る方法であったり、会話しなくても一緒に過ごせるカラオケなどでなされている、そのコミュニケーション一つにセックスもある。そして一番苦手なコミュニケーションは会話なのである。
- ・ 現在のめまぐるしい性の情報に子供たちはとまどっている。それに負けないくらいの性の情報を与える必要があるが、ただ知識や情報を与えてもだめで、子供達に考える力を与えなければいけない。
- ・ 早期から性教育を行っても、子供達はそれぞれの発達段階に応じた理解を示すので、特に問題はない。
- ・ 若者の問題行動の根本には関係性の喪失があり、見ている者は氷山の一角に過ぎない。コミュニケーション能力を高め、人間の関係性の再構築をしていくことが重要である。
- ・ 指導するときには事例性を出し、具体的な性の知識や情報を皆で共有するのも効果的である。
- ・ 自分の第二次性徴と向き合えた時に、人は成長出来る。第二次性徴としっかり向き合えるように、援助していく必要がある。
- ・ 「悩まない」子ども達は、「分からない」つまり「考えていない」のである。まず、性について、「考えさせる」ことが大切である。
- ・ 心を病む人は、その人の物事の優先順位が周囲の常識とかけ離れているといえる。

上村茂仁先生のコラム【3】

愛ちゃんは18才、彼との付き合いはピルで避妊しています。でもある日ピルを飲み忘れてしまいました。1ヶ月ピルを休んで次の生理から飲もうと思っていた。なのに、その間に何故か彼氏以外の人とセックスしてしまったのです。そんな事から緊急避妊薬の質問が掲示板にありました。その愛ちゃんが仲間に語りかけています。是非読んでください。

「最後に今回の体験を通して、伝えたいことがあるので勝手に書きます。

私が言うのもなんですが、緊急の対処法があるからといって、無謀な性行為を行ってはいけないです。

私のように流されたりしないで、好きな人と、ピルもゴムも使用した安全なセックスをしてください。

流さなくていい涙を流さないでください。女の子が負うリスクのほうが、断然大きいです。

緊急の対処法だって、無理矢理妊娠しないようにしているのですから、体にいいわけありません。

結果として妊娠しなくなつて、結局、心も体も傷つけています。

体を大切にしてください。思春期ですからセックスをしたくなつてもおかしくないです。

してしまってもおかしいとは思いません。でも、危険な行為に及ばないでください。泣くのは、女の子です。

男の子だって、心が傷つくかもしれません。女の子は心も体も傷つきます。

大半の大人たちは、禁止するばかりで本当に大切な避妊法について、詳しくは教えてくれません。

そのせいもあって、間違った知識を持っている子はごまんといいます。

友達とセックスについて話してみてください。知らない子には、教えてあげてください。

このページのこと、ピルのこと、コンドームのこと、セックスの長所も短所も、

そしてどれだけの女の子が泣いているのかも、話してあげてください。

自分のことだけ守るのではなくて、皆のことも守りませんか？

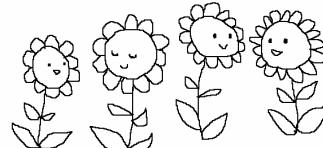
大切な親友も、そんなに仲良くないクラスメイトも、町内に住む女の子も。

勇気を持って心許せる友人に話すだけでも、泣く子は減ると思います。

勝手なことばかり書きましたが、今回のことできなり凹んでいます。

でも、どうしても伝えたかったので書きました。長々とごめんなさい。

誰も悲しむことのない良いセックスをしましょう。」



心打たれる文章です。ピアカウンセリングの意味はココにあります。

コラムバトンリレー

第3走者 岡山県立大学大学院 保健福祉学研究科

博士後期課程 富岡 美佳

『奇跡の話』

学校で性教育を依頼されるときに、助産師として生命誕生の素晴らしさや、奇跡的にこの世に生を受けた存在である事を伝えてほしいという要望をよく受けます。私自身数々のお産をさせていただいていると、赤ちゃんの生命力や母親の命を産み出す力のすごさに感動して、恥ずかしながら何年経っても生まれる瞬間に涙がでてしまいます。これこそ、自分ってなんだろうと問い合わせ始める思春期の人たちに伝えたいと漠然と感じてきました。そして、その奇跡的な誕生が、人の力で支えられていることをお産から学んだ事だと思います。あるとき、何も異常のない産婦さんの様子が急変したことがありました。初産婦さんにとって出産は想像のつかない恐怖心を与えます。パニックになって母子ともに危ない状況になったとき、側についていたご主人が「俺がここにいる」と数回頬を叩きました。絶対に守って見せるという意気込みで意識を戻そうとしたのです。するとその時、産婦さんの様子がよくなっていき心音も元気になっていました。私達も緊急時には瞬時に最全の医療を提供するようにトレーニングを積みます。でも現場では、医学では考えられないような奇跡がいっぱい起こります。家族の力、人を愛する力、人を守ろうとする力がたくさんの奇跡を起こします。そんな奇跡の話を近頃は性教育でるようにしています。そんな話が照れくさい頃ですが、生徒のみなさんからの感想文には「奇跡の話に感動した」とあります。私は、人の力がある限り、いつもかならず奇跡が起こると信じています。

みなさんはいかがでしょうか？

お知らせ

このたびの会報で、同封しているものは以下の通りです。ご確認ください。

- ・次回研修会「指導者のための避妊と性感染症予防セミナー」のご案内、申込書
- ・S R H 研究会会則(改訂版)・年会費制のお知らせ
- ・HIV・STDの研究会資料2部

会報誌のコラムバトンリレーでは、次の走者が決まらない場合、会員の方に、メールや電話で依頼をさせていただすることがあります。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

会報誌第3号の作成にあたり、
原稿を提供してくださった方、
また参考になるご意見を与えて
くださった方々に、厚く御礼
申し上げます。